

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区

校番27

福山市立駅家南中学校

最終更新日

2022年(令和4年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○ファシリテート型授業が本当に現状にあって いるのか今後対応する必要はあると思う。 ○なぜ教職員が時間を必要とする必要が生じてい るのか調べ、本来すべきこととそうでないも のを確認する必要はあると思う。 ○登下校の通学路の把握が必要ではないか。 ○新しい学習方法、新しい体力アップを先生、生 徒ともに考え思考する必要はある。	児童生徒の現状 ○落ち着いた生活はできている子どもが多い が、自分から課題を見つけたり、創意工夫し て新しいことにチャレンジしたりする態度 が、授業の中で十分に育成できているとは 言えない状況である。 ○一昨年度、昨年度と、感染症対策のため 地域での活動は大きく制限された。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫 理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	コミュニケーション力 協調性・思いやり 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒 ○「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。
--	--	---	--

III 自 校

ミッション 未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に 貢献できるよう、励ましながら鍛える。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫 理観”) めざす 子ども像	問題解決力 コミュニケーション力 協調性 チャレンジ
学校教育目標 自立して 社会に貢献できる 生徒の育成	問題解決 多様な視点から物事 を考えることができる	コミュニケーション 自分の考えや思いを 理由を明確にして伝 えることができる
現 状 ○生徒アンケート(肯定的解答率 単位%)	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
授業はよくわかる 82 学校へ行くのは楽しい 75	問題解決 多様な視点から物事 を考えることができる	コミュニケーション 自分の考えや思いを 理由を明確にして伝 えることができる
授業で自分の考えを説明した り書いてまとめている 75 みんなで協力し合ってよりよい学 級や学校をつくろうとしている 78	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
授業で友達と話し合ったり自 分の考えを深めたりしている 80 今学期図書館を利用した 21	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
○令和3年度全国学力・学習状況調査結果 ()は市平均 単位%	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
国語 18 (H30) 19 (H31) 21 (R3) 数学 18 (H30) 19 (H31) 21 (R3)	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
A 74(75) 65(72) 59(63) B 59(60) 65(72) 59(63)	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
○体力運動能力調査 県平均以上の項目数 18項目中3項目	問題解決 自らの課題を発見し課 題解決のための自分 の考えを持つことが できる	コミュニケーション 事実と意見を区別し て相手に分かりやす く伝えることができ る
	テーマ 「学び」のファシリテート	
	研究 内容等	「ファシリテート」を切り口に、日々の授業を「学び」が起きる授業に変えていく ・問いを変える(つなげる、ふかめる、ずらす) ・教師の説明→生徒の活動 ・形態を変える(トップダウン→ボトムアップ) ・ICTを活用する
	めざす授業の姿	・目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 ・他者との対話を通して、自分の考えを見直したり、新たなことに気付いたりしている。 ・課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 ・自分の考えを、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	生徒が自ら選 択・決定し、行 動することを 大切にした授 業づくりへの 転換	★	新規	日々の授業に、教 師が説明する場 面だけでなく、生 徒が自分から考 えたり話し合っ たりする場面が ある。	全教科で共通して 実施する最低限の こと(活動、発問等) を設定し、日々の授 業での実施	生徒アンケートの 学びに係る質問項 目の肯定的評価の 割合をすべて8 0%以上にする。	・生徒アンケート の学びに係る質問 項目 70 項目のう ち、37 項目が 80%以上であっ た。	2	2	・すべての生徒 が1 時間の中 で、「分かった・ できた」を実感 できる学習活 動を全授業で 行う。					
			継続	すべての授業者 が自らの実施す る「主体的学び」 を説明すること ができる。	設定した共通実 施事項の成果を 検証するための 計画的校内授業 研修の実施	100 年教育アン ケート「授業の中 で、児童生徒が選 んだり決めたり する割合が増え ている」を80% 以上にする。	・100 年教育アン ケート「授業の中 で、児童生徒が選 んだり決めたり する割合が増え ている」は 63%であった。	2	2	・生徒が自ら選 択・決定し、学 んだことを日 常につなげる 授業づくりを 意図的に仕組 む。					
2	生徒が「学校へ 行くのが楽し い」と感じるこ とができる学 級や学年の創 造		新規	すべての学級で 生徒が課題を主 体的に話し合い、 合意形成し、改善 に向けて行動し ている。	生徒が主体的に 企画・運営する学 校・学年行事の実 施 学級活動（L & S）における話し 合い活動の実施	生徒アンケート 「学校へ行くの は楽しい」の肯定 的評価を80% 以上にする 欠席日数30日 以上の生徒を新 たに出さない。	・生徒アンケート 「学校へ行くの は楽しい」の肯定 的評価は、78% であった。 ・欠席日数30 日以上の新規の 生徒が1名出た。	3	2	・生徒が企画・ 運営する学年 行事の実施と ともに、日々の 学級活動で、生 徒が考え、決め て、主体的に動 く場面を全ク ラスで作る。					
3	持続可能な社 会の担い手と しての、生徒の 自覚と行動力 の育成		新規	総合的な学習の 時間をSDGs の視点から見直 し、3年間を通し て探究的な学習 を系統的に実施 する。	地域人材を活用 した体験的な学 習の実施 職場体験学習の 復活	生徒アンケート に総合的な学習 の時間の項目を 新設し、肯定的評 価を80%にす る。	・「自分で課題を 立てて情報を集 め整理して、調べ たことを発表す るなどの学級活 動に取り組んで いる」72%	3	2	・1年生で地域 の事業所等を 訪問し、現地調 査を行った。 2・3年生で 地域人材を活 用した体験的 な学習を実施 する。					

【プロセス評価の評価基準】

【達成評価の評価基準】

【総合評価の評価基準】

評価基準		評価基準		評価基準	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。